

みやこんじょ



No.56

発行日 2019年3月1日
発行 独立行政法人国立病院機構
都城医療センター
宮崎県都城市祝吉町5033番地1
TEL 0986-23-4111

基本理念

高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心し、信頼できる病院をめざします

第8回 都城消化器疾患合同カンファレンス

2019年4月25日(木) 19:00～
都城医療センター 2F大会議室

H31年4月25日「第8回都城消化器疾患合同カンファレンス」を当院の大会議室で開催いたしました。都城の各施設の内科・外科から下記の珍しい「地中海熱症例」を含む種々の疾患に富む6例の症例提示があり、それぞれに対し熱心な討論が行われました。なお、終了後は近くの食事処で各施設の内科や外科の医師を中心に集まり、意見交換会を行い、親睦を深めました。

<演題>

① 「地中海熱の一症例」

都城医療センター 消化器病センター
藤原 俊成、土肥 容子、駒田 直人



② 「食道亜全摘術後の胃管・気管瘻の一例」

都城医療センター 外科
光浦 智証、緒方 健一、田中 洋、杉原 栄孝、後藤 又郎



③ 「手術創管理に難渋した症例」

都城医療センター 外科
緒方 健一、田中 洋、杉原 栄孝、光浦 智証、後藤 又郎

④ 「肝がん治療におけるレントゲンバチニブの使用経験」

都城医療センター 消化器病センター
駒田 直人、土肥 容子、藤原 俊成



⑤ 「食道癌根治術後の横行結腸による食道裂孔ヘルニアの一例」

都城市郡医師会病院 外科
濱廣 友華、末田 秀人、佐野 浩一郎、内山 周一郎、真方 寿人、市来 伸彦

⑥ 「遅発性に絞扼性イレウスをきたした外傷性腸間膜裂孔ヘルニアの一例」

都城市郡医師会病院 外科
末田 秀人、佐野 浩一郎、内山 周一郎、真方 寿人、市来 伸彦、濱廣 友華

内科の紹介



内科部長
前田 宏一



内科医長
加藤 順也



内科医長
佐藤 誠一



内科
石井 隆雄

内科は血液疾患、肝臓疾患診療、さらに代謝内科・内分泌内科の診療を行っています。

2018年4月より当院副院長として代謝・内分泌学専門の吉住 秀之先生が赴任されました。

肝臓疾患については、ウイルス性肝炎や自己免疫性肝炎、肝硬変、肝臓がんの診療を行っています。

ウイルス性肝炎については、治療法の長足の進歩があります。

これまでのインターフェロン注射を中心とした治療法に加えて、B型肝炎に対するラミブジン、エンテカビルやテノホビル、C型肝炎に対するリバビリン、テラプレビル、ダクラタスピル、アスプレナビルやパニプレビルなどの新規抗ウイルス薬の使用により、ウイルス消失を含む飛躍的な治療成績の向上が認められています。

ウイルス肝炎の治療成績の向上が認められる一方、脂肪肝、脂肪性肝炎やこれらに関連した肝硬変、肝臓癌の患者さんの増加があり、有効な治療法の開発が必要となっております。

これらの疾患の背景にある糖尿病や高血圧、脂質異常症などの生活習慣病の治療が重要であることから、都城市を中心とする医療圏の医療施設の協力をいただきながら診療を行っています。

代謝内科・内分泌専門外来の設置により上記疾患の診療についてさらに専門的・多角的な取り組みができると期待されます。

宮崎大学医学部消化器内科・血液学講座より消化器内科医師の派遣をいただき、毎週木曜日午後に大腸内視鏡検査を施行しています。

血液疾患については、造血幹細胞移植療法以外の治療を行っています。

骨髄異形成症候群、急性白血病や慢性白血病や多発性骨髄腫、悪性リンパ腫、成人T細胞性白血病などの血液悪性腫瘍の他、特発性血小板減少性紫斑病や自己免疫性溶血性貧血、再生不良性貧血といった良性疾患の診療を行っています。

現在高齢化の影響もあって、多発性骨髄腫や骨髄異形成症候群の増加があります。新規治療薬の導入により、生存期間の改善が認められておりますが完治が困難な疾患であることから、外来治療を含めた根気強い治療を行って、治療成績を上げる努力を行っています。

放射線治療の進歩もあり、当院放射線科との連携を行いながら治療を行っています。

造血幹細胞移植療法については宮崎市内や鹿児島市内の移植施設に依頼しています。

県立宮崎病院及び宮崎大学医学部附属病院の血液内科で臍帯血移植療法を含む非血縁者間造血幹細胞移植術が施行されており、同種造血幹細胞移植療法が必要な患者さんのほとんどの方が県内で移植療法を受けることができるようになりました。

また成人T細胞性白血病リンパ腫ATLの治療法や発症予防に関する研究が進み、宮崎大学病院血液内科と協力しながら、より強力かつ安全な治療法の確立を目指して診療に取りくんでいます。

HIV診療について当院は拠点病院となっていますが、現在十分な診療は困難となっているため、県内の感染症科医師と連携しながら診療を継続しています。

2019年4月1日より佐藤 誠一 医師が赴任されました。血液内科を中心に診療を行います。

新たな力を得て、さらなる診療成績の向上に向けてスタッフ一同尽力いたします。

循環器内科の紹介



臨床研究部長
阿南 隆一郎



循環器科医長
宮内 孝浩

当科の担当する領域は、高血圧、高脂血症などの生活習慣病などから、狭心症、不整脈、心不全などの心臓疾患を始め、大動脈解離や閉塞性動脈硬化症などの血管疾患になります。

また、手術を受ける患者さんの、術前検査としての心機能評価、周術期の心不全、不整脈の管理も担当しております。

高血圧、脂質異常症、などの生活習慣病は、喫煙やメタボリックシンドロームとともに、動脈硬化を進めてしまうことが分かっています。これらの病気は自覚症状がほとんどなく、気づかないうちに進行し、脳や心臓、血管などにダメージを与えていきます。その結果、ある日突然、狭心症や心筋梗塞、脳卒中など、命に関わる恐ろしい病気を引き起こすことがあります。そのため、たとえ自覚症状がなくてもこれら生活習慣病を放っておらず、検診などで異常を指摘された時などご相談ください。当センターにはこうした動脈硬化専門医や糖尿病専門医といった生活習慣病担当医や検査機器などそろっております。

また当科の特殊外来の一つに心筋症及び遺伝カウンセリング外来があります。こうした疾患のご相談についても対応いたしております。



心エコー装置



負荷心電図装置

当外来で行える主な検査は超音波心エコー検査と24時間ホルター心電図、負荷心電図、冠動脈CTなどです。検査で狭心症などさらなる精査加療など必要に応じてより高度の医療が出来る市内の施設と協力した診療が出来る体制をとっています。

当院他科や高度医療機関との連携をしながら、当科スタッフ一同適切な診療を提供できるよう日々研鑽を積みながら頑張っております。今後とも宜しくお願ひいたします。

新任医師紹介



氏名：落合 佳代
勤務部署：小児科
着任にあたっての抱負：まだ
まだ未熟ですが、精一杯
頑張ります。どうぞよろし
くお願い致します。



氏名：中山 徹男
勤務部署：産婦人科
着任にあたっての抱負：一人
一人の患者さんと向きあつ
て、より良い医療を提供し
ます。

令和元年度 就職説明会に参加して



令和元年5月25日(土)に国立病院機構九州グループによる看護職員就職説明会が鹿児島県民交流センターで行われました。今年度は144名の参加があり、当院のブースには41名が訪れました。ブースでは、当院で取り組んでいる周産期母子医療センターや、在宅サポート病棟などの特徴や役割について説明しました。将来助産師を目指しており、当院の周産期医療に関心を持っている参加

者が多く、母体搬送から新生児の集中治療などの対応や、地域とのモニタリングネットワークシステムが導入されていることを懸命にアピールしました。このシステムの導入により地域の周産期医療を支え、より多くの妊産婦が安心安全に出産を迎える体制が整えられていることは当院の強みであります。また、参加者は入職後の当院の教育について質問をされる方が多く、国立病院機構におけるキャリアパス制度と教育研修システムについても説明し、入職後も知識・技術を高めていくことが出来ることを伝えました。参加者からは、「将来助産師を目指しており、都城医療センターで学んでみたい」、「就職後の研修制度に安心感がある」という声が聞かれました。当院の魅力や特徴を伝える事で、一人でも多くの参加者が当院の看護や目指す目標に共感し、一緒に働きたいと思えるような職場環境を作りたいと思いました。

今回、初めて就職説明会に参加しましたが、改めて当院の良さを知る機会となりました。今後、後輩に看護の魅力が伝えられるよう日々努力していくたいと思います。

(1病棟 助産師 下原 依代菜)



骨髓検査技師研修施設に認定されました

今回、都城医療センターが骨髓検査技師認定制度研修施設に認定されました。

骨髓検査技師とは、一般社団法人 日本検査血液学会が認定する骨髓検査等の血液形態検査、血液関連疾患における専門知識の上で高度な判定能力を有する技術者とのことで、当院では、1名がこの認定資格を有し、全国および九州で評議員として、また骨髓検査技師研修施設認定委員会委員、問題作成委員も兼任し、日々情報を入手しつつ、自己研鑽にも励んでおります。さらに、検査部では当院血液内科医の下、質の高い血液形態検査を施行できる人材を育成できるように今後も精進して参ります。

この研修施設は、2019年1月現在、全国で47施設、九州では4施設、宮崎県では、都城医療センターのみです。

骨髓検査技師を目指す認定血液検査技師の資格をお持ちの方で、骨髓症例が少なく、受験に必要な症例数が足りない方は、当院のような認定施設での研修で、症例レポートをその施設で作成することが、学会から認められています。このような方は、是非、当院に相談されてください。

現在、骨髓検査技師受験に必須の資格である認定血液検査技師を目指す方が、双方の病院の許可を得て、様々な症例を顕微鏡でみるために、月に数日、研修にいらしています。このような方も、相談に応じますので、ご連絡ください。

(臨床検査技師長 松本 恵美子)



「治療と仕事の両立支援相談窓口」開設のご案内

「治療と職業生活の両立等支援対策事業」(平成25年実施)における企業を対象に実施したアンケート調査によれば、疾病を理由として1か月以上連続して休業している従業員がいる企業の割合は、メンタルヘルスが38%、がんが21%、脳血管疾患が12%となっています。特にがん患者さんの3人に1人は就労世代であり、そのうち約3割は疾患を理由に診断後の早い段階で離職を経験していると言われています。一方で離職という選択はこれまでの収入を失うことでもあり、生活費や教育費、これからの治療費を考えると日常生活にも直結する非常に大きな決断もあります。

なかでも、就労世代へのがん対策は重点課題として位置付けられ、がん相談支援センターが取り組むべき相談支援業務の1つとされています。

そこで当院では、相談支援センターの相談員だけでなく、より専門的な立場で支援できることを目的に産業保健や労務の専門家である保健師や社会保険労務士による「治療と仕事の両立支援相談窓口」を開設しました。復職に際しての調整や休職中の保障等について相談をお受けし、疾患を理由とした離職を防ぐとともに、体調や治療状況に応じた勤務制度や休暇制度など利用可能な制度を上手に活用することで適切な治療を受けながら働き続けられるよう協働して支援していきます。

専門家による窓口は毎月第3木曜日の9:30～11:30ですが、相談支援センターにて常時対応しています。当院以外の患者さんも相談可能ですのでまずは、相談支援センターへお気軽にご連絡ください。

(相談支援センター MSW 和田 智美)



看護の日 令和元年5月22日(水)

看護の日の意義を理解し、看護の心、感謝の心、助け合いの心について 分かち合うことを目的とし、講演会と環境整備を企画しました。

講師に医療法人倫生会三州病院の訪問看護ステーション長であり、がん専門看護師、本校の卒業生である久保田優子先生と総看護師長である中村千鶴先生をお招きしました。

「私が考える看護職の魅力～専門看護師としての活動を通して」「先輩と語ろう～看護師としてのやりがい」のテーマで講演をしていただき、将来の看護師像について描く機会を得ました。また、学校周囲の環境整備を通して、看護の主要概念である環境への関心を高めることができました。

以下は学生の学びを紹介いたします。

特別講義では、「がん看護」「専門看護師」について事前に調べました。実際に専門看護師として活躍する先輩の話を聴きし、将来看護師になる上での選択肢が広がったと思いました。また、三州病院について説明を受け、今後就職する際には自分で病院を選択するための情報収集の能力を養いたいと思いました。
(1年生代表 木下 開雅)



私たちはいずれ患者や自分の親を見取る立場になります。患者・家族一人ひとりの死に対する思いや意思は違うため、事前に理解しておくことが必要であると思いました。

緩和ケアでは患者と家族のこころとからだのケアをするイメージがありました。残された遺族のケアにより、家族のこころの支えになると思いました。また、家族ができる事を支援する大切さも学びました。

改めて患者の希望に応じた看護ができるように、人に関心を持ち、向き合っていきたいと思いました。
(2年生代表 木下 結希加)



私が実習において受け持った患者は、終末期の経過をたどっていました。家族が毎日面会に来られ、家族とコミュニケーションをとることで患者の入院前の生活や仕事など、様々なことを理解することができました。

そこで、患者が入院前の生活を考慮し、ケアの効果を論文で調べ、看護師に相談して家族と共に実践することができました。家族がケアに参加することで、患者の反応の変化があり、家族が喜ぶ姿を見ることができ、看護のやりがいを感じました。

これからも実習や就職と長い人生が続きますが、入院時だけの看護だけではなく、入院前の患者の生活を知り、退院後の生活を見据えた援助を実践していきたいと思います。

(3年生代表 竹中 詠一)

リハビリ室紹介

《新入職員》



○仮上 透 士長

平成31年4月1日付で、前任の藤内士長に代わり宮崎東病院より赴任してまいりました。前施設では主に神経難病や呼吸器、整形外科を担当しており、ロボットスーツHALの導入にも携わりました。当院では整形外科を中心に呼吸器などの周術期、及びがんリハビリテーションに力を入れております。また昨年より開設された在宅サポート病棟でも活動しております。私の役目としては、前任者からの取り組みを継続しながら、患者さんが安心してリハビリに励むことが出来ること、またスタッフも働き甲斐のある職場作りを目指すことと考えております。今後とも当院リハビリテーション科を宜しくお願い致します。



○時任 宏樹

福岡東医療センターから理学療法士として赴任しました。患者様の気持ちに寄り添ったリハビリを目標として元気に明るく頑張ります！最近の趣味はカレー作りです。（スパイスから作ります（^ ^）/）



○河村 静美

4月から都城医療センターに理学療法士として入職しました。楽しくまたしたいと思っていただけるようリハビリを提供していくたいと思います♪

一生懸命頑張りますのでよろしくお願ひします！

《がんリハビリテーションについて》



当院は地域がん診療連携拠点病院の指定を受けており、緩和ケアにおけるリハビリテーション（以下リハ）対象者に関しても、がんリハを提供しています。また、がんリハの対象となる診療科は多く、外科・内科・呼吸器科・婦人科の患者様を主に担当し、呼吸器では呼吸リハを取り入れたり、外科では早期離床を図ったり、それ以外の科においては化学療法等の副作用に合わせた介入を行うなど、それぞれの科の患者様に対して特色のあるリハを提供しています。地域の皆様の生活をよりよくする手助けが今後もできるよう、日々の業務にリハ科一同励んでいきます。

外来診療科別週間担当医当番表 独立行政法人 国立病院機構 都城医療センター

【全診療科 初診予約制】受付時間 8:30～11:00

【2019年8月1日】

診療科名等		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科 ※2	初診	血液	前田 宏一		佐藤 誠一	
		肝	加藤 順也			
	再 診		前田 宏一 佐藤 誠一	加藤 順也 佐藤 誠一	前田 宏一 加藤 順也 佐藤 誠一	前田 宏一 加藤 順也 佐藤 高智徳
循環器内科		一般	宮内 孝浩	宮内 孝浩	宮内 孝浩	宮内 孝浩
		特殊		心筋症外来 (午後)		
呼吸器内科		初診	今津 善史	今津 善史	小田 康晴	今津 善史
		再 診		今津 善史		
呼吸器外科		初 診		手術日	手術日	手術日
		再 診		手術日	手術日	手術日
小児科	午前	1 診	中川 緑	柳邊秀一	落合佳代	入江望美
		1 診	柳邊秀一	中川 緑	入江望美	落合佳代
	午後	2 診	落合佳代	裴孝竣	裴孝竣	中川 緑
		3 診			シナジス外来 (8月～3月)	入江望美
外科		初 診	緒方健一	手術日	手術日	緒方健一
		再 診	田中洋	田中洋 光浦智証	手術日	杉原栄孝
乳腺専門外来						(休診)
消化器病センター		初 診	藤原利成	駒田直人	駒田直人	土肥容子
		再 診	土肥容成	藤原利成	藤原利成	駒田直人
NST外来				駒田直人 (第二、四火曜日 14:00～16:00)		
整形外科		初 診		吉川教恵	吉川教恵	吉川教恵
		再 診	吉川教恵	吉川教恵	吉川教恵	吉川教恵
		特殊検査	吉川教恵	吉川教恵	吉川教恵	吉川教恵
リウマチ科 ^{※2}		吉川教恵 (再診のみ)	吉川教恵 (再診のみ)	手術日	吉川教恵 (再診のみ)	吉川教恵 (再診のみ)
泌尿器科		1 診	手術日	山崎丈嗣	慶田喜文	山崎丈嗣
		2 診		慶田喜文		慶田喜文
皮膚科			中山文子 (9:30～13:00)		中山文子 (9:30～13:00)	中山文子 (9:30～13:00)
産婦人科		初 診	徳永修一	古田 賢	徳永修一	古田 賢
		再 診		徳永修一	古田 賢	徳永修一
耳鼻咽喉科		一般	外山勝浩 津曲省吾	外山勝浩 津曲省吾	外山勝浩 津曲省吾	外山勝浩 津曲省吾
		難聴外来	(14:00～17:00)			
放射線科		放射線治療	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹
		画像診断	日野祐一	日野祐一	日野祐一	日野祐一
歯科口腔外科		一般	田畠雅士 新屋俊明 西久保舞	田畠雅士 新屋俊明 西久保舞	田畠雅士 新屋俊明 西久保舞	田畠雅士 新屋俊明 西久保舞
		ペインクリニック				横山幸三 (終日・手術/外来不定期)
		障がい者歯科				森主宜延 (月2回)
がんサポート外来						岩崎竜馬
緩和ケア外来						林章敏 (第四金曜日)
特殊外来		マザークラス (第二土曜日・第四月曜日)	リンパ浮腫外来 フットケア外来	助産師相談室 (午後)	リンパ浮腫外来 PICC外来 (午後)	ストーマ外来(午後) 母乳外来 遺伝カウンセリング外来 (14:00～15:00)

※1 全診療科初診予約制となりますので、事前に診療FAX連絡票にてご連絡頂きますようお願いします。

※2 医療機関の方へ：血液内科、リウマチ科の初診については、事前に紹介予約申込書と共に、最新の血液データを送ってください。

【地域医療連携室・がん相談支援センター】フリーダイヤル (0120) 411-329 FAX (0986) 26-1893



独立行政法人
国立病院機構

都城医療センター

(地域がん診療連携拠点病院・
地域周産期母子医療センター)

〒885-0014 宮崎県都城市祝吉町5033番地1

TEL/0986-23-4111(代表) FAX/0986-24-3864

E-mail/621-miyakonojo@mail.hosp.go.jp http://www.nho-miyakon.jp

編集発行：広報委員会